

令和 4 年度

事業所名 : グループホームだんけ胡四王(B棟)

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390500189		
法人名	社会福祉法人 花巻東雲会		
事業所名	グループホームだんけ胡四王(B棟)		
所在地	〒025-0012 岩手県花巻市胡四王一丁目15番号5		
自己評価作成日	令和4年9月15日	評価結果市町村受理日	令和4年11月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>1. 恵まれた環境を生かす: 近くに新花巻駅、市の重要文化財である熊谷家、宮沢賢治記念館、イギリス海岸などがあり、外出先となっている。矢沢地域の中心的場所にホームがある。</p> <p>2. 地域との関係: 月2~3回、地域のボランティアの方が来所し歌、体操等利用者とふれあう交流会や季節ごとに行事などを行っているが、現在はコロナ流行のためボランティアの受け入れは中止し、利用者と職員で行っている。事業所の庭に大きな花壇があり利用者と一緒に花植え、手入れを行っている。又、畑作りもしており、利用者と収穫物を収穫して楽しんでいる。</p> <p>3. 医療との連携: 近くの開業医の協力を得て看取りを10年以上継続している。今年は1名の看取りをした。</p>

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は、新幹線新花巻駅のすぐ近くにあつて、別荘風のひと際大きな建物と手入れされた花壇が印象的である。河川は離れた場所にあり、水害時は避難場所としても活用できる位置にある。地域の保育園や住民、ボランティア団体とふれあう機会があり定期的な交流も行われていたが、現在はコロナ禍のため見合わせている。庭が広く、草木が植えられた庭園があり散歩して楽しめるようになっている。長年慣れ親しんだ事業所で最期を迎えることができるよう、家族の意向に添って、本人・家族、地域の協力医、施設の看護師と介護職員、ケアマネが連携し、協議を重ねて対応している。「利用者の尊厳を守る」とする理念をもとに、職員は穏やかな職場風土の中で、「その人らしい生活を維持出来たか」を振り返り、在るべき介護サービスを追及しながら、利用者の思いを汲み取った介護に努めている。</p>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和4年10月4日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

事業所名 : グループホームだんけ胡四王(B棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をA棟B棟それぞれの掲示板に掲示し、いつでも確認できる状態で管理者と職員は理念を共有し、利用者の一日の生活の安全につなげている。	理念が事業所の運営方針として機能するよう、介護の在り方を具体的に表現している。数年前に職員で見直し、「地域の人々とのふれあい」を挿入した。毎月の勉強会で理念の意識づけや共有も併せて行い、年に一度は「その人らしい生活を維持」できたかについて振り返っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	熊谷家で行われる催し物、地域の保育園での行事に参加している。利用者が作った作品等は施設内に展示し公開している。ただし、現在はコロナで行事へ参加することは中止としている。	通常であれば年に2回の神楽、保育園で行われる行事への参加、地域サロン「気晴らし会」やボランティア団体「金ママ」との交流を定期的に行っていたが、現在はコロナ禍のため見合わせている。利用者が交流を通して作った作品は施設内に掲示して楽しんでいる。	コロナ禍にあって、これまで築いてきた地域との関りが以前のように再開出来るよう、収束後の交流の在り方について、関係者と連絡をとりながら、徐々に準備されることが望まれます。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	月2~3回地域の高齢者が当施設集まり、歌ったり、お茶するなどボランティア活動で交流をしている。地域のボランティアの踊りを見て楽しんでいる。ただし、現在はコロナで中止している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、運営推進会議を開催し意見、要望等事業所運営に活かしている。昨年は運営推進委員の方に外部評価をしていただいた。	運営推進会議は、2か月に1回開催している。事業所の運営状況、ヒヤリハット等の報告を行い、委員からは介護に関するアドバイスや地域の行事予定などの情報提供をいただいている。委員の勧めで地域の行事に参加することが出来たなど、委員には事業所と地域との橋渡し役を果たしていただいている。	保育園長を運営推進会議委員として招聘し、相互に支え合う関係性を築いていくことを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議のメンバーに市の包括支援センターの方を委嘱し参加してもらい、意見交換している。市開催による認知症予防セミナーなどの研修に参加している。	市の「ケア倶楽部」(医療・介護・障がいのインターネット連携システム)を活用して、国や市の情報を取り入れ、市から花や木の苗の寄贈をいただき、庭園も作っている。家族が行う要介護認定申請には、事業所の介護支援専門員がサポートしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	独自の身体拘束廃止宣言を作成し掲示している。身体的拘束等適正化のための指針等を用いて定期的に勉強会を行い職員全員で共有し、実践している。	職員研修は年に2回実施している。身体拘束委員会も年2回開催し、身体拘束廃止宣言を行い書面にて周知している。外部の研修にも参加し、必ず伝達講習を開き職員で共有している。身体拘束、スピーチロック、ドラッグロックとも行われておらず、夜間以外はドアの施錠もない。センサーを使うことなく、外出の際は鈴で分かるようにしている。	

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームだんけ胡四王(B棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	今年、虐待防止のための指針を作成し施行した。定期的に勉強会を行い職員全員で共有し、実践している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者、ケアマネジャーが権利擁護について、研修に参加し勉強会、ミーティングの機会に職員にも説明し、利用者の権利を守るようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時契約書に基づき、利用者、家族に説明し理解を得て、署名してもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居時、運営規定(重要事項説明書を含む)に基づき説明している。同時に利用者、家族の要望を取り入れるようにしている。運営推進会議に利用者、家族代表が入っているので反映できる。	家族の意見、要望は、入居前に事前に聴き取り、入居後も、来訪時に毎回伺っている。職員会議や勉強会で家族の意見等を検討し、検討結果を家族に説明した上で介護に取り入れている。体調維持のための水分ケアや病院受診、購入品、準備品のことなどが多く話されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回職員会議で話し合いを行い、運営に関して意見が反映できるようにしている。法人の理事長、事務長が同席している。	管理者は月1回の職員会議で職員の意見、提案を把握し、検討して業務に反映している。フラットな組織運営を指向していることもあり、理事長へ直接職員から申し出る場合もある。職員の提案は、利用者の介助方法や必要な福祉用具の活用等があり、一つ一つ具体化されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常勤勤務者の増員、夜勤専従者の雇用を図ると共に、介護職員処遇改善手当やキャリアパスの充実、働きながら介護福祉士の資格取得の支援などを行っている。育児と両立できるように支援している。		

事業所名 : グループホームだんけ胡四王(B棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が研修を受けたり、働きながら介護福祉士の資格取得などには、勤務シフトを工夫して支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症高齢者グループホーム協会に参加し情報の収集、交流に努めている。現在、施設見学・視察・交流会は、コロナで中止となっている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時には特に家族、本人から話を伺い、要望・不安等に丁寧に耳を傾け、説明し理解を頂くようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時家族と面談し、ゆっくり話をしながら、良い関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時のアセスメントの際、ご本人の希望と家族に意向を伺いながら必要性等を見極めながら、サービス内容を検討し支援するよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除、行事食作り、畑作業、花の手入れ、誕生会、野菜の下ごしらえ、折り紙、絵手紙等作業を一緒にし、楽しみの時間作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的な介護計画のほかに、利用者の変化の都度に、家族に説明し、意見調整しながら、介護計画に反映できるよう努めている。家族と本人の関係にも注意し良い関係を保てるように間に入り支援している。現在はコロナのため出来ていないが、誕生日会などには家族にも参加してもらうようにしている。		

事業所名 : グループホームだんけ胡四王(B棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在はコロナのため出来ていないが、行事・祭り・地域の運動会等への参加や食事会など外出の支援している。また地域の友達や友人親戚等の訪問があった際は、ふれあいルームや和室を提供している。	馴染みの場所や人は入居前に聴き取り、ある程度把握している。タブレットを使った面談も以前行っていたが、画面で家族と認識することが難しい人が多く、今は行っていない。現状、家族との面会はドア越しとしている。コロナ禍前はゲートボール仲間や友人が面会に来てくれたり、ボランティア団体と関係を築いて、来訪を楽しみにされている人が多かった。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングでのテーブル設定や、気の合う同士の会話、散歩同行等、関係を深められるように配慮しサービス提供に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居者への訪問や、家族からの情報等にも継続し関わりに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に本人の意向を聞くように努め、また把握に努め、職員と家族が情報共有できるようにしている。また、本人ができる事や意向については、ケアプラン等に反映し、サービスを提供するよう努めている。	思いをくみ取れない利用者は一人もいない。職員は、普段の会話から意向や思いを聴き取り、気持ちを理解し思いを共有している。利用者が変わったことがあれば、業務日誌に記録して職員で共有している。塗り絵の作品を褒められ生活意欲の向上に繋がった方もいる。帰宅願望は利用者全員に共通しており、どの利用者にもそれぞれの気持ちに寄り添い対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時在宅ケアマネ、家族よりできるだけ聞き取りを行い、サービス担当者会議や勉強会で職員間で情報共有し、できるだけ本人の思いに添えるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	業務日誌・個別日誌・申し送りノート等で利用者の状況を把握し、情報共有に努めている。1日のケアについては、3人の日勤者でケア内容を協議し、サービスを提供するよう努めている。		

事業所名 : グループホームだんけ胡四王(B棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議で評価や話し合いを行い、介護計画の内容を職員間で共有しながらケアに取り組んでいる。家族には施設に訪問した時又は電話や手紙を通して本人の様子を伝え、要望を聞いている。	月2回カンファレンスを実施し、1ヵ月で6人分の計画の見直しが行われ、3ヵ月ごとに利用者全員の介護計画を見直すことが出来るようにしている。計画作成担当者2名とケアマネでサービス担当者会議を開き、アセスメント資料を参考にしながら見直しを行っている。計画作成後は本人・家族の同意を得ている。	事業所の運営は、順調に推移していると思われませんが、介護サービスの一層の向上を図るため、介護計画見直しの過程に職員のより積極的な参加を求めないかについて、職員全員で振り返ってみることを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、日々の様子を個別日誌と業務日誌に記録し、申し送りノート等を用いて職員間で情報共有、実行している。改めた方が良いものは、勉強会で話し合い、見直し、実践につなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々の家族の要望や、地域の行事、季節の催し物に合わせながら、利用者の要望に応えるようにしている。 また突然の受診にも速やかに対応し家族に報告して共有している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設の目の前に熊谷家がありここで行われる行事には、できる限り参加している。近くの保育園との交流や地域の行事に参加したり、施設のふれあいルームをボランティアに開放し、交流できるよう支援している。(神楽来訪)		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族対応が困難になってきている現状です。(新型コロナ状況も含む)かかりつけ医への定期的な受診は、出来るだけ本人、家族の要望に応えるよう受診ノートを用いている。また場合により受診の同行も行っている。 歯科診療は協力歯科の訪問診療も導入している	入居前からのかかりつけ医を受診する人、事業所の協力医に変更した人は、概ね半々である。通院の都合上、かかりつけ医を変更した利用者が多い。受診の同行は家族にお願いしており、その場合は、体調の報告や相談内容を記載した受診ノートを家族に託し、医師からもノートに返事を受けている。家族からは受診の報告を受けている。地域の訪問歯科医の協力も得ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の利用者の変化に、看護師・ケアマネ・介護職員と個別日誌・申し送りノート等で情報共有し、体調変化には早めの対応に努めている。		

事業所名 : グループホームだんけ胡四王(B棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	サマリーの提出、入手で、早期に、適切な対応ができるように努めている。また入院期間中は医療連携室と連携して情報を共有に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化と思われる時点で家族と話し合い、今後について決めている。終末期については入居時に説明し、その後段階に合わせて意思を確認している。家族、協力医院の医師、看護師、介護職員、ケアマネが協議の上看取りを実施している。勉強会で今後おこること等勉強し情報を共有し終末期にそなえている。終了時には振り返り会議をしている。	重度化の対応指針を整備している。体調の変化に伴い再度家族に説明し、その上で看取り介護についての同意書にサインをいただいている。特別養護老人ホームへの入所を希望される方には、入所申し込みをご家族に行っていただいている。事業所では、今まで10人以上を看取っている。本人・家族、地域の協力医、施設の看護師と介護職員、ケアマネが連携し、協議を重ねて終末期対応している。デスカンファレンスを行い、看取り介護の振り返りと職員の精神的ケアも行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、事故については勉強会を行い、職員の知識を深めている。対応、連絡についてはマニュアルを作成し参考にしてている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を利用者・全職員で行っている。管理権限者・防火管理者・消防士を交えて年1回訓練を行っている。年1回食糧、必需品(オムツ)を点検、補給している。地域の「矢沢自主防災会」に加盟している。	ハザードマップ上の地域指定はない。火災訓練を定期的に行い、地域の協力体制もあり地域防災隊の協力が得られる他、短時間で駆けつけ出来る職員も5人いる。フローチャートを作成し、即時対応ができる体制ができている。水害時は避難所が川に近いことから、事業所に待機とし、火災時は、近傍の「胡四王会館」を避難場所としている。おむつや食品備蓄している。	火災発生時における車椅子での戸外への避難方法について、まず現在の対応方法を記したマニュアルを作成し、逐年その改善を積み重ねていかれることを期待します。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者1人1人の人格を尊重し、年長者として扱い、それを態度や声掛けに反映し、プライバシーに配慮する様常に心がけている。虐待防止のための指針を制定し、全職員が勉強会に参加している。	理念に利用者の人格の尊重を盛り込み、支援の柱としている。虐待防止の指針も定め、毎月勉強会を行っている。入浴は基本的に同性介助とし、トイレではドアを閉め、危険がある場合は居室で介助を行っている。普段から年長者である利用者との信頼関係を大切に支援を行っている。	
----	------	--	---	--	--

事業所名 : グループホームだんけ胡四王(B棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者本人の思い、希望を察知しその情報を職員間で共有している。また、本人の希望や自己決定を表現しやすいよう穏やかな雰囲気づくりを心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人1人のペースを大切にするために、個々にあった支援について話し合い、理解、認識を深め対応している。サービス担当者会議や勉強会で職員間で情報共有しできるだけ本人の思いに添えるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみ、おしゃれには気を配り、散髪は3カ月に1回ホームで行い、外出時には、季節に適したおしゃれを楽しんでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑の収穫から、野菜の刻み、味付け、おやつ作り、配膳等、各自の好みや、能力に合わせて作業を行っている。また仲の良いそれぞれのグループで食事をしている。	献立は2人の栄養士で考え、買い物は栄養士と2人の職員が行っており、スーパーの宅配食材も活用している。それぞれのユニットのキッチンで9人分の食事を作っている。利用者のお手伝いは、自家菜園で育てた野菜の収穫や、配膳、下膳とキッチン外でのものとしている。検食は職員の1人が行っている。行事食や誕生日食があり、利用者の好みそうなものを提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分補給を十分にする為、1人1人の好みによって、飲み物の種類を変えたり、嚥下の状態によりキザミ食にしたりトロミ食にして提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの実践を歯科医の指導で行っている。自分でできる利用者は声掛けを行い、利用者によって、介助を要する人には、歯や舌の状態を見ながら介助を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中はおむつに頼ることがないように定期的にトイレ誘導やサインを見逃さないように、排泄の記録を読み援助している。夜間は利用者それぞれの状態に合わせて対応している。	排泄チェック表を活用し、一人一人のタイミングに合わせてトイレ誘導を行っている。両ユニットとも4人が自立している。トイレでの排泄を継続出来るよう、毎日1回はトイレ時に手すりを利用してつかまり立ちの訓練を行っている。紙パンツや紙おむつは、夜屋に応じて利用するタイプを分けて、利用者負担の軽減に努めている。	

事業所名 : グループホームだんけ胡四王(B棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘について勉強会をしている。水分補給、運動、食事の工夫、排便の記録を毎日行い、必要時下剤、看護師のよる排便を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	1人1人の希望を聞いている。脱衣所との温度差を最小限にし、体調に注意している。プライバシーを重視し可能な限り最小の介助としている。	一人1週間に2回、午前の入浴としている。自分で着替えの準備が出来る人は前日に行っている。見守りを基本とする同性介助としており、必要な場合に介助するようにしている。歌や会話などを楽しむ方もおり、リラックスした時間となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の生活リズムを作り、心身の安定を図り、良眠できるように援助している。散歩・歌・体操等を行っている。居室の温度・湿度等の環境整備を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が利用者の薬の管理を行っている。職員が薬を1回毎に渡し、内服を確認している。1人1人の薬の効果、副作用等はサービス担当者会議や勉強会を行い、職員間で共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居時生活歴を話して聞く様にしている。1人1人が何をしたいのか、できるか理解し喜んで生活できるように取り組んでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は、職員が連れ添いながら数人のグループで散歩に出かけるようにしている。帰宅願望のある利用者には1日に2～3回と散歩している。	ドライブには出掛けていないが、天気の良い日は庭や事業所近くの神社まで散歩している。普段から緊急時の避難コースを通して散歩することにより、災害時の対応にも備えている。家族が同行する通院は、コロナ禍での数少ない外出機会だが、懐かしい方にも会えることもしばしばある。花見等のドライブができない代わりに、インターネット動画で花見を楽しんだ。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人や家族の意向を聞きながら、お小遣いの使い方について支援をしている。利用者の欲しい物を職員が買い出ししている。利用者は直接お金の管理はしていないが、毎月、施設から家族に報告している。		

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームだんけ胡四王(B棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族と連絡を取りたい方については、電話をかけてあげたり、本人からの伝言を伝えたり、手紙を出す等、本人の意向に沿った支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同空間のリビングの音・光・色・広さ・温度等に気をつかい、テーブル配置を考え、大人数も少人数で楽に過ごせる工夫をしている。	木造の落ち着いた建物で、広さや高さが通常よりゆったりとしている。日中夜間ともエアコンや暖房器具で、温度や湿度の管理が行われ、換気は天井近くの窓で行い、暑さ寒さに支障がないようにしている。利用者の写真や、作品が掲示されている。コロナ禍のため、検温・手洗いを励行し、消毒・清掃は通常以上に頻回に行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルの配置、椅子の並べ方等を工夫して、独りでも、友達同士でも好きなように過ごせるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物品や、好みの物などもわかりやすい表示を取り入れ、手摺、摺り棒等に工夫し配置し生活への配慮がされている。 自分の机・椅子・テレビ等使い慣れたものを居室に置いている。	各居室にはベッド、エアコン、ストーブ、クローゼットが備え付けられ、テレビや自宅で使っていた家具や馴染みの物を持参している方もいる。 必要に応じて、介護ベッドや手すりなどの活用も行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の名札、トイレの場所等、わかりやすい表示を取り入れ、手摺、摺り棒等工夫して設置し生活への配慮を行っている。		